

「教員になる」という想いを全力で支援します



未来への挑戦

令和元年度 第2号

宮崎国際大学 学生教職支援センター通信 2020年3月27日発行



国際教養学部・教育学部3年生対象「外部講師による対策講座」の様子

一層の教職支援充実を目指して、新たに「外部講師による対策講座」を開設しました

卒業おめでとうございます

3月10日に令和元年度第23回 宮崎国際大学卒業証書・学位記授与式が厳かに開催され、81名（国際教養学部50名、教育学部31名）が巣立ちました。（取得免許・資格：高等学校教諭一種免許状(英語)7名、中学校教諭一種免許状(英語)7名、小学校一種免許状19名、幼稚園教諭一種免許状30名、保育士資格11名）今年新型コロナウイルス感染症予防の関係で、卒業式の実施も心配されましたが、縮小して無事に実施できました。その分、喜びもひとしおではなかったかと思えます。式の後、卒業生の一人から、「自分にとって一番成長できた4年間だった」という力強い言葉を聞きました。自分の成長を実感できたのだと思えました。この機会に大学生活を振り返り、お世話になった方々に感謝するとともに、自分の夢の実現に向けて大きく羽ばたいてください。



代表学生への卒業証書・学位記授与の様子



教育学部での卒業証書・学位記・免許状等の授与式の様子

これから一人一人進む道は違いますが、本学での学びや出会い、そして友との絆を大事にして、たくましく生きてほしいと思います。特に、教職に就く皆さんには、日々の教育実践のなかで一人一人の子どもとしっかり向き合い、必要な力を身に付けさせながら信頼される教員や保育士として活躍することを期待します。

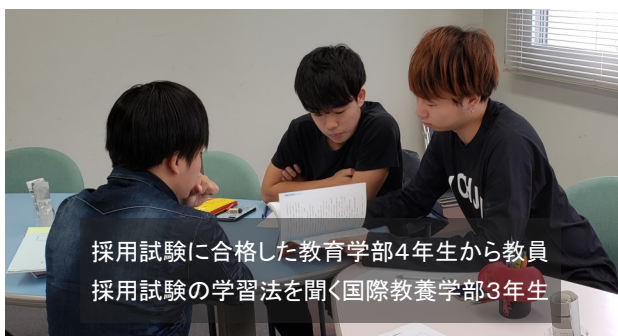
教員採用試験のための特別対策講座「応用Ⅰ」終了

教育学部では今年度4月から国際教養学部では10月から実施した教員採用試験のための特別対策講座が令和2年3月14日をもって無事に終了しました。

特に、9月の特別対策合宿A・Bや11月の小学校教育実習を経験してから、教職や採用試験に向けての自覚や心構えが変わり、対策講座に取り組む姿勢にも、厳しさや意気込みが強く感じられるようになりました。4年次の5月から中学校の教育実習に参加する予定の国際教養学部の受講生にとっても大いに参考になる講座になったようです。

国際教養学部3年生の感想

- 「応用Ⅰ」で、様々なことを学びました。教職教養の問題を解いて、自分がどれだけ分かっているのかを確認でき、採用試験に合格した先輩方のお話を聞いたことで、どのように対策をすればよいか、どのような計画を立てればよいのかを知ることができました。まだまだTOEICの点数の向上や英検の取得などやるべきことが山積みですが、教員採用試験に現役で合格するために、今後の計画を立て、1日も無駄にしないようにしたいです。
- 教員として求められる資質や言動を学びました。自治体によって受験科目が異なるため、しっかりと下調べをして事前準備に取り掛かりたいです。また、教育学部生が記入してくれた教育実習報告書を参考に、失敗しない教育実習にしたいと考えます。
- 「応用Ⅰ」では、教職教養についての知識を得ることができたのみでなく、教育実習や教員になる心構えなど、多くのことを学ぶことができました。宮崎県が掲げる教育理念やスローガンなど、私にとって初めて聞くものばかりでした。その度、新たな知識を得た喜びと、知らないものの多さに不安を感じていました。私は教員として働くか、まだ定かではありません。なるべく早く決断したいと思っています。将来の子どものために学び続ける姿勢は大切にしていきたいです。



採用試験に合格した教育学部4年生から教員採用試験の学習法を聞く国際教養学部3年生

教育学部3年生の感想

- 対策講座は、とても自分のためになるし、やる気が高まる時間になりました。これから教員採用試験に向けて、今、自分が何をすべきなのか、改めて実感しています。教育実習に行き、教師になりたいという思いが高まり、子どもたちの顔を思い出すだけで自然と力が湧いてきます。対策講座で解いた過去問題や、いただいた資料を大事に利用し、力をつけていきたいと思えます。

● 今日の「応用Ⅰ」では、教育法規と宮崎県教育振興基本計画について学習しました。今も、教員採用試験に向けて教職教養や全科の勉強をしていますが、内容についての理解はまだまだ不十分だなと感じています。教育実習を終えて、自分の教師に対する意識が大きく変わったというもあり、自分の将来に向けて、今やるべきことや、今しかできないことはに精一杯取り組んでいきたいと思えます。また、教員採用試験をゴールとせず、その先の教師としての役割と責任ある立場として、知っておかなくてはならないことや、学校や教育の現状について知り、自分なりの考えを持てるようにしていきたいです。



● 対策講座では、何度も過去問題をしたことが力になりました。過去問題をする中で私の中にあせりが出てきて、採用試験に向けた勉強も真剣に行うようになりました。また、合格した先輩の話聞いたこともとても参考になりました。今後は、応用Ⅰで行ったことを振り返り、過去問題は長期休業中にもう一度解きたいです。すぐには結果が出ないと思うので、毎日少しずつでも勉強をし、よい結果につながるようにしたいです。



国際教養学部・教育学部3年生対象「外部講師による対策講座」開講

4月から計画実施してきた24講座に加え、外部講師による対策講座を開講しました。(国際教養学部10月～3月、教育学部12月～3月)長年、県内の学校や教育委員会等で力を発揮してこられたベテラン講師陣による講座はとても分かりやすく、受講生からも大変好評を得ています。

内容は下記のとおりです。すでに開講している理数科ゼミ、教科教職ゼミ、英検対策講座等も含め、教員採用試験対策を総合的に推進してきました。次年度の教員採用試験では実技系科目がすべて廃止になり、教職教養、専門教養の試験の結果で合否が決定されることとなります。それだけに特に、理数英についてカギとなるのでしっかり勉強するように指導してきました。学生も熱心に取り組んでいます。

次に、外部講師による対策講座を受講した学生の感想を紹介します。

外部講師による対策講座（期間：10月～3月）

対象	内容	時間
国際教養学部 教育学部合同	試験までの取り組み、教育法規、教育課程、道徳、学習指導要領、教育心理、教育時事、人権同和教育、特別支援教育、西洋・日本教育史	22
国際教養学部	生徒指導の意義と現状、生徒指導の諸問題、集団討論	6
教育学部	教師への道、教師像づくり、教育行政施策、キャリア教育 国語、算数、社会、理科、模擬授業（国語、算数、社会、理科）	20

外部講師による対策講座を受講しての国際教養学部・教育学部3年生の感想 (3月上旬時点)

- 対策講座では、先生方が過去の出題傾向を細かく分析してくださっていて、勉強をする際に、出題範囲を絞りながら効率よく進めることができます。自分一人だと、絶対に見落としていただろうという箇所がほとんどで、今のままで試験に臨んでいたら、ものすごく不安だったと思います。今の時間を無駄にせず、7月まで残り4か月、全力で頑張りたいと思います。

私はこの対策講座に出席して、多くの資料をいただきながら勉強することができます。午前中からある講義では、午後大学に残って勉強することができますので、勉強を計画的に進めることができます。模擬授業はやはり時間が短いと数名しか見てもらえないので、また見ていただけるような機会があるといいです。

- 一次試験の対策では、出題傾向などを知ることができたり、必要なポイントを押さえることができているので、とても助かっています。模擬授業対策では、10分間の授業の組み立てや授業のポイントなど、まだまだたくさん学ぶことがあるので、しっかり学んで自分のものにしていきたいと思います。



外部講師による対策講座の様子

スクールトライアル事業での貴重な学び

本年度の宮崎県教育委員会主催のスクールトライアル事業が終了しました。

スクールトライアル事業は「子どもへの愛情や教育に対する情熱をもつ教職希望者を育成するためには、早い段階から学校や子どもの状況を知ることが重要であることから、教育実習とは別に、教職を希望する学生に対して、教員の業務に対する理解やコミュニケーションを図る機会を提供する。」ことを目的に実施されています。

本学からは、1年生61名（国際教養学部20名、教育学部41名）が、公立の小学校、中学校、

高等学校、特別支援学校において3日間の学校体験（9月～1月中旬）を行いました。参加した学生が作成した「学校体験に係る報告書」には、体験で学んだことや将来に向けての抱負等が力強く記載されています。教職への思いが強くなるなど一人一人にとって今後につながる貴重な学びの機会になったようです。



宮崎大学において実施されたスクールトライアル事業説明会の様子

公立中学校での体験 国際教養学部1年生

今回、3日間という短い間ながら、スクールトライアルに参加させていただき、教員の仕事の大変な部分や、やりがいを感じる部分を、多く学ばせていただきました。

また、何名かの先生方の授業を見させていただく中で、先生の授業の進め方によって、生徒たちの授業への参加する様子が大きく違うことを知りました。自分は教員になったらこの先生のこういうところをまねしたい、この導入の仕方は生徒たちも興味がわくだろうと、将来の参考になるものばかりでした。

さらに、今まで知ることのなかった職員朝会や学級事務も経験させていただき、自分のことは後回しで生徒のことを第一に考える先生方の素晴らしさを知ることができました。母校へ訪問することができ、こんなに苦労して学校を支えてくださっているんだな、自分もそうなりたいという気持ちも芽生えました。

まだまだ何も足りていないことに気付かされた3日間でした。今後は、大学生活をさらに真剣に送り、また、学力はもちろん、人間力を身に付け、さらにレベルアップして次の教育実習に臨みたいと思います。

県立高等学校での体験 国際教養学部1年生

3日間のスクールトライアル事業を通して、何人もの先生方の授業を参観させていただきました。その中で私は、次の三つのことが印象に残りました。まず、同じ先生の授業でもクラスによって教え方や内容を変えている点です。それぞれのクラスの特徴を理解し、生徒が一番スキルを伸ばせるように指導をしていることがとてもよく伝わりました。

また、クラスだけでなく、生徒一人一人の特性も掴んでいるなど感じました。

次に、学科やクラスによつて授業に対する姿勢が全く違っていただけです。特に理数科と中学生の授業はとても積極性があり、在籍していた時に見たことがなかったので、とても新鮮でした。

最後に、授業を全部英語で行っている先生がいたことです。授業の最初から最後まで生徒とのコミュニケーションを日本語ではなく英語で全部していてとても驚きました。生徒も慣れていようで理解できていたし、何より楽しそうな印象を受けました。この3日間を通して、生徒とのコミュニケーションにより生徒を理解することの大変さ、そして重要さを一番に学べたと思います。

3日間を県立宮崎西高等学校で学べて本当によかったです。これからもっと頑張ろうと思えました。

公立小学校での体験 教育学部1年生

小学校という現場に実際に立ち、体験してみると、これまで気づけなかった教員の実態が見えてきました。学年が一つ違うだけでも子どもへの指導方法は全く異なり、それに伴う工夫も必要とされることがわかりました。教室の雰囲気や環境によって子どもの反応は変化するため、臨機応変な対応力を身に付けるべきだと思いました。

今回のスクールトライアルでは、特性をもつ子どもに対する指導についても観察しました。警戒心を解き信頼してもらうためには笑顔を忘れてはいけないと感じました。制御がききづらい子どもには、伝え方や言葉選びを慎重に行わなければかえって気分を悪化させる原因になるため、丁寧な指導の重要性について考えさせら

考えさせられました。

苦勞も多けれど、それ以上にやりがいの大きい職業だと感じました。3日間という短い間ではありましたが、大まかな1日の業務について多くのことを学び、教員になりたい気持ちをより一層高めるものとなりました。今回のスクールトライアルで得たことを次の教育実習等で生かしていけたらと思います。貴重な体験となり、大変充実した3日間を過ごすことができました。

公立小学校での体験 教育学部1年生

私はこの体験を通して、先生が発する言葉や行動は子どもたちの鏡であるということ、視野を広く行動することの大切さを学びました。「ありがとう」や「がんばったね」「すごいね」といったポジティブな言葉をかけると子どもたちはキラキラとした素敵な表情をしていたり、先生の言葉を真似したりなど先

生という存在は子どもたちにとって大きなものののだと思いました。

クラスのみんなで遊ぶ際には全員が楽しめるよう広い視野で子どもたちを見守ったり、授業中では、子どもたちの表情や進み具合に注意したりなど、1対何十人の状況に対応できる力が必要不可欠だと感じました。今の私にはその力が全然足りないことを痛感しました。今後学んでいくなかで、どのようにしたらその力を伸ばしていけるのかということを考えていきたいです。

3日間という短い期間でしたが、毎日が新鮮でわくわくしながら体験させていただきました。初めてみる教員という世界で、子どもたちを第一に考え試行錯誤を重ねていた先生方がとても輝いて見え、私も現場で輝ける教員になりたいと思いました。そのためにも今回見つけた自分自身の課題と向き合い、克服・成長していきたいです。

来年度も学生教職支援センターでは、教員等を目指す学生が全員現役で採用試験に合格できるように、本学独自の教員採用試験対策プログラムの充実、教員採用試験等に関する相談体制の充実、スクールトライアルの充実及びボランティア活動の一層の参加促進に努めて参ります。

新年度の「教員採用試験のための特別対策講座」の計画については、後日紹介いたします